



## 今月の話題

- 地震工学通年研修  
2023-24 開講
- 新しい研修生の紹介
- 帰国研修員の活躍事例

## 研修データベース

シノプシス・データベース(修士論文概要)

Bulletin データベース

Eラーニング

IIEENET(地震防災技術情報ネット)

IIEE-UNESCO レクチャーノート

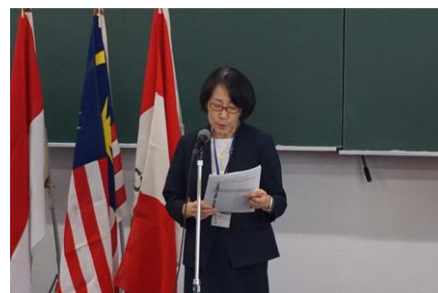
## 地震工学通年研修 2023-24 開講

国際地震工学センター 管理室長 秋葉 泰彦

地震工学通年研修2023-24の開講式が10月2日(月)にJICA筑波センターにて開催され、約1年間の研修をスタートしました。

今期においては、8ヶ国から13名が、地震学、地震工学、津波防災の3つのコースに分かれ、それぞれの専門性を考慮した講義を受講しています。

研修生一人一人にとって、充実した研修となるよう、スタッフ一同努めて参ります。また、研修生が日本での生活も楽しんでもらえること、各研修生同士の友情を育んでいただく場となることを願っております。そしてそれが将来において防災にも役立つ人的ネットワークの形成に役立っていくことを期待いたします。この研修を支えてくださる関係者の皆様におかれましては、引き続きよろしくお願いいたします。



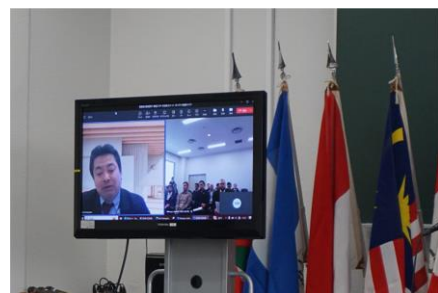
JICA 筑波センター  
睦好絵美子 所長



建築研究所  
澤地孝男 理事長



ハウアスさん(Eコース、アルジェリア)



政策研究大学院大学  
防災政策プログラムディレクター  
片山耕治 教授

# 地震データベース

地震情報

宇津カタログ(世界の地震被害)

地震カタログ(世界の大地震の震源メカニズム、余震分布等)



集合写真

## 新しい研修生の紹介

地産学(S)グループ (4名)				
1		アルジェリア	アブダ ムスタファ	国立地震工学応用研究センター 地震ハザード部門/研究員・博士課程学生
2		エルサルバドル	マドリッド マドリッド オマール アントニ	サンサルバドル首都圏計画事務所 都市開発管理部/技術者
3		インドネシア	サンプタ プリアン タク	気象・気候・地球物理庁 地震津波センター/地球物理観測者
4		インドネシア	ユスフ ファドリ	気象・気候・地球物理庁 地震津波センター/地球物理観測者



耐震工学(E)グループ (6名)				
1		アルジェリア	ハウズ イスラム	国立工科大学 土木工学部/学生(修士II)
2		エルサルバドル	ウオア ウマンソル ホセ リカルド	サンサルバドル都市圏計画局 都市開発管理副部門/技術者
3		マレーシア	モハメド ハズワン ビン ザハリ	公共事業局 メンテナンス部門/土木技術者
4		ペルー	ハラミヨ デル アギラ ジョセフ ダーウィン	日本・ペルー地震防災センター 耐震工学観測センター/研究アシスタント
5		トルコ	エユブギラル ムスタファ アルト	イスタンブール工科大学 防災研究所/研究アシスタント
6		トルクメニスタン	チャリエブ パルハット	トルクメニスタン建設省 国家試験主管局/専門官

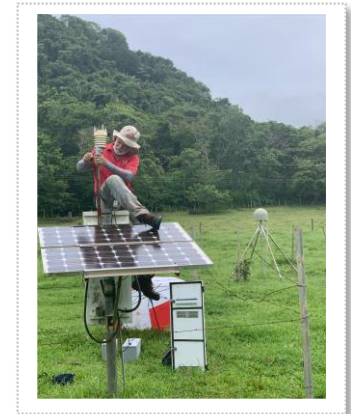
津波勲章(T)グループ (3名)				
1		インドネシア	ハリヤント <u>ファジャーニル</u> トリ	気象・気候・地球物理庁 地球物理学部門 / 地球物理学アナリスト
2		インドネシア	スリアント <u>セザニル</u> プラブ ドウィ	気象・気候・地球物理庁 地震津波センター / 地球物理観測者
3		フィリピン	ボンセ エングラシオ <u>ジェイアール</u>	公共事業高速道路局 設計部水事業課 / エンジニアⅢ

## 帰国研修員の活躍事例

### マリノ・プロットィ(地震学コース 1983-84)

1983年8月、ちょうど40年前、私が弱冠22歳の時、つくばのIISSEEにおいて、地震学の研修を始めました。この機会が、永く私のプロフェッション及びアカデミックの人生を形成するだろうとは、思いもしませんでした。この当時、地震学は好きではなかったと認めなければなりません。ただ、石油地震学のキャリアを追求することのみに興味がありました。当時のIISSEEで受けた研修の質及びクラスメートとの個人的な交流がそれからの私の人生の道を開きました。

IISSEEでの研修を修了し、コスタリカに戻り、コスタリカ火山及び地震観測(OVSICORI-UNA)に雇用され、今日ラテンアメリカの最も高密度な地震計ネットワーク構築に貢献する機会を与えられました。数年後には、カリフォルニアへ渡り、カリフォルニア大学サンタクルズ校で地球学の修士号、地球物理学で博士号を取得しました。OVSICORI-UNAの地震部門で39年間働いています。すべてはIISSEEでたった1年間過ごしたことによります。地震学でのこの経歴により、南極も含むこの地球のすべての大陸に行っています。



楽しむのは今です

現在、沈み込み帯プロセスに関して従事していて、コスタリカの2つの半島が重要な沈み込み帯地震の地震発生ゾーンに位置している利点を活かし、フィールドの地殻変動を記録することができています。これにより、ニコヤでの2012年のMw=7.6の地震の破壊域及びマグニチュードを予測することができました。今、オサ半島での次の地震を予測するため、ニコヤ半島での成功を再現しようと、南コスタリカでデータを記録しています。地震発生ゾーンに沿岸のドリリングによりアクセス可能なオサ半島における国際沈み込み帯オブザーバトリーの開発も促進しています。

### インドラジット・クマール・ポール(地震工学コース 2021-22)

日本より帰国した後、論文に集中しました。主題は「貫入テストパラメーターとバングラデッシュの選定地点の土壌との関連性」でした。最終的に、バングラデッシュの「科学技術軍事研究所(MIST)」で地盤工学の修士号をさらに修得しました。非公開の試験の様態をここにお知らせします。

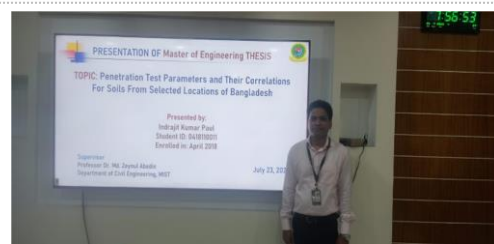
## 連絡先

IISEE ニュースレターは、IISEE と卒業生の架け橋を目指しています。

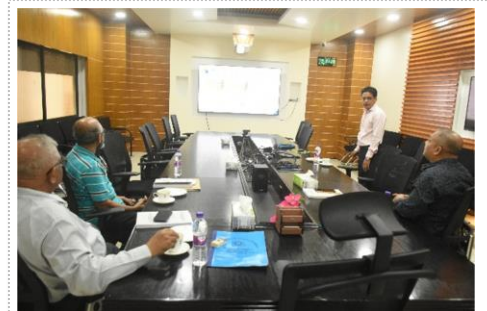
ニュースレターへの報告や記事をお待ちしております。皆様の自国でのご活躍をお知らせ下さい。

また、皆様の同僚やお友達もこのメーリングリストに登録するようにお誘い下さい。

iiseenews@kenken.go.jp  
<https://iisee.kenken.go.jp/jp/>



プレゼンテーション タイトル



スーパーバイザー、外部及び内部メンバーに向けてプレゼンテーション



満足のいくプレゼンテーション後



プレゼンテーション後

このほか、「第二回土木インフラストラクチャー及び建築資材の向上国際会議(CICM-2023)」に出席しました。2つの論文を提出し、1つは著者及びもう一方は共同著者でした。両論文とも私が発表しました。論文の一つは、IISEE で修士課程の個人研修の部分でした。タイトルは「バングラデッシュにおける4地震帯の平均 N30 値をベースにした地震サイトの分類」でした。もう一つの論文タイトルは「バングラデッシュにおける標準貫入テストでの自動トリップハンマーとドーナツハンマーの差異」でした。ここに国際会議での発表の様子をお知らせします。

バックナンバーは  
下記をご覧ください。

<https://iisee.kenken.go.jp/jp/newsletter/>



7月26日 CICM-2023でのプレゼンテーションモード



7月26日 CICM-2023でのプレゼンテーション後の証書授与



7月26日 CICM-2023でのプレゼンテーション後の証書授与



7月27日 CICM-2023プレゼンテーションモード



7月27日 CICM-2023でのプレゼンテーション後証書の授与